

学習会(子ども会)だより 3月号
MY SKY 第20号
マイ スカイ

1996年3月12日火曜日発行(毎月第2・第4土曜後の火曜日定期発行)

発行者
板野中学校
学習会
編集・文責: 吉誠正士

みなさん、3月3日は何の日でしょう? ひな祭り? まあそれもありますが、できることなら、「^{すいへいしやそうりつ きねん ひ}水平社創立記念日」とも答えてほしいものです。

本号は今年度のMY SKY最終号ということで、学習会関係の先生方から一言^{ひとこと}ずつ(?)言葉をお聞かせしたいと思います。



①^{がく しゅう かい}学・習・会!!

学習会についていろんな思いをもった人がいますが、つい最近2年生から学習会についての文章がよせられました。学習会によせる思いの一つとして読んでみてください。

みんな、きいて! 今日私学習会に行ってきました。^{こうす}郡頭会場の子と、南会場の子と総合センターの子が集まって、部落問題学習したんやけどな、難しい資料で、私全然わからなかったんだけど、Tくんの言ってることとか聞いてたらわかってきて、Tくんは「やっぱり部落に生まれたこと何も思わん。良かったって思っとう」って言ったんよ。私自分がそんなふうには思えないから、すごく「なんでえー?」とかずっと思っていました。だから、発表しようと思って、横にいたMちゃんにいろいろ聞いてたんだけど、やっぱりMちゃんも「部落に生まれたことイヤじゃ」って言っていました。それで^{いっしょ}一緒の意見だったので、話しやすくて、Mちゃんがいろいろ勇気くれたので、みんなの前で「私部落に生まれたことがイヤです」って言ったんよ。そのことで、先生が^{ひっし}必死で言ってくれたんよ。一番心に残ったのは「昔の方がきつい差別があったけど、今までの大人がこんなにまで差別うすめてきたんやけん、お前らでとどめささんか!」って言ってくれたこと。それですごい元気が出てきたんよ。やっぱり私今まであきらめとったんよ。差別をなくすことや、自分が差別を受ける立場であるってことを。けど、私こんな勉強しよるのに「あきらめたい」「逃げたい」って思いよんや、差別の勉強しよる意味ないでえ。だから、今の気持ちでは差別の勉強したって意味ないと思うんよ。私は。みんながんばって、たぶん多くのみんなが望んでいることだと思うんよ。差別なくなっしてほしいって。それなのに、私は、差別の勉強しよる

のに「差別やなくならんわー」ってあきらめててどうするんだろうって思うんよ。なんでこんな気持ちになるか私わからんけど、たぶん私が差別あきらめるってことは、自分が差別受けることをあきらめてしまうってことなんだと思う。こんな自分きらいで、変えたいんよ私。自分を。まだ直接差別受けたことないのに「差別って怖い」って言えんなって思った。先生が言ってた。「大人になって差別にぶつかったとき、助け合えるのは仲間だ」って。「電話一本」って。やっぱり私、学習会の仲間を大切にしたいと心から思った。「やっぱり私たちは、差別をなくさないかんのじゃ」って思った。将来、私やが大人になって、私やの子どもが苦勞せんように、たとえ差別をなくせなくても、もっと今より差別をうすくできたらいいなあって思いました。今までの大人ががんばってきたように、私もがんばっていかないかなあって思いました。差別はやっぱりなくなさないかん。いや、「きっとなくなる」かな。今日は学習会行ってよかったです。

学校や学習会というところは、わからなかったことがわかっていく喜びや、知らなかったことが知れたときの楽しさを感じるところだと思うんです。その感動を知っているからこそ、また学ぼうとするんだと思うんです。そしてそれが、本当の教育だと思うんです。

では、中学校でどれだけのことをどれだけ学べばいいのでしょうか？

こと同和教育については、その境目^{さかいめ}は決められないように思います。むしろ同和教育についていえることは、境目^{さかい}を探ることが大切なのではなく、それよりも、自ら学ぼうとする意欲を身につけることが大切なのだと思うのです。自ら求め聞く。自ら求め見る。自ら求め読む。その「自ら」を学ぶのが同和教育だと思うのです。

逆に「自ら」という主体性が学べていないと、それは人間的墮落^{さうらく}につながる可能性が大きくなるようにも思います。

どの命にも限りがあります。その命を最大限に輝かせるために、自ら求め、学び続けることです。前号の最後でも述べましたが、今まで取り組んできたその情熱^{じょうねつ}を、どうか一時^{いつ}のものにすることなく、部落内外を問わず、今あるつながりを確かなものにしていくとともに、新たなつながりを求めて、それぞれの進路先^{しんろきき}を揺り動かしていってください！



前途^{ぜんと}に幸^{さいち}あれ

学習会主任 西條 仁

ご卒業おめでとうございます。中学校3カ年の義務教育を終え、心身共に立派^{しんしん りっぱ}に成長さ

れました。今あるのは皆さんの努力もありますが、保護者の方々や先生、地域の方々の援助^{えんじょ たまもの}であることを忘れてはなりません。

いよいよ社会へ、高等学校へと巣立^{すだ}って行きますが、しっかりとした目標を持って進んで欲しいです。本校の校訓、自主、協同、責任の精神で社会の荒波^{あらなみ}に対応していただきます。十年一^{ひとむかし}昔と昔は言われていましたが、時代の変化は厳しく、二、三年で大きく変動しています。

したがって、常に勉強していなければ、時代から取り残されてしまいます。生涯^{しょうがい}学習が推し進められているのもそのためです。また、情報化時代でもあります。いろいろな情報を受け取りますが、取捨選択^{しゅしゃせんたく}して自分を高めるようにして欲しいです。このような時代ですから、何をするにも健康が大切になります。自分の健康は自分で管理するようにしてください。それと心の健康にも十分気をつけて、しっかりと自己の確立^{かくりつ}を図る^{はか}ようにして欲しいです。

学習会を通して互いの友情の絆^{きずな}が一層深まり、連帯の輪が広がったと思います。学習会の意義^{いぎ}、目的を忘れずにこれからも学習会の仲間と共に同和問題の解決に向けて努力して欲しいと思います。

これからの時代は、自分をアピールすることも大切になってきます。外国の人達は、ほんとに自分をアピールすることが上手^{じょうず}です。自分の個性をみだし、個性の伸張^{しんちやう}を図ることが大切です。また、自分を主張しなければならぬ時代です。幸い^{さいわい}にして皆さんは全体学習を通して、多くの人々の場で発表してきましたので、この発表を大いに生かして欲しいと思います。

親とは木の上に立って見ると書きます。皆さんの前途^{ぜんと}の幸せをこのようにして見守っています。皆さんと人生で初めて出会った人です。親が最初の先生です。親の生きざまに学び、大切にして親に迷惑^{めいわく}をかけないようにして欲しいです。また、人間とは、人と人との間と書きます。社会は人間関係が大切です。誠実^{せいじつ}で信頼^{しんらい}され、尊敬^{そんけい}される人間になってください。

若さあふれる前途^{ぜんと}洋々とした皆さん、ご多幸^{たこう}を祈っています。



つながりを求めて

同和教育主事 阿部 憲作

今まで取り組んできた学習会や学校での部落問題学習。人間がどう生きるのが誇らしい

のか、美しいのかを共に考え、語り合ってきました。自分の思いを語ること。それは他の人とつながることではないでしょうか。

「つながり」とは「関係」とか「きずな」という意味があるようです。私たちはこれまでこの意味をじっくりかみしめながら、またこれを目標^{もくひょう}にして生活してきたように思います。

部落問題に取り組むことは、自分自身を解放していくことだと思います。差別^{かべ}の壁は、自分と他の人の間にできるのではなく、自分の中にあるのだと思います。「問題は目の前にあるが、それを解決する課題^{かだい}は自分の中にある」と考えています。自分自身をじっくり見つめ、今自分に問^とわれている課題は何であるかを考え、これからも生きていきたいと思っています。

板野中学校では6年前から全体学習が始まり、毎年その部落問題学習の授業記録を中心に一冊の本にまとめているのですが、その本の題を「峠を越えて」と名づけています。部落問題を考えていく上で「峠を越えて」という言葉はまさに的^{まと}を射^いた言葉です。私たちは人生の峠……、その道^{みち}のりは険^{けわ}しく厳^{きび}しいけれど、それを越えていくことに生きがいや喜びをみつけながら生きていくのだと思います。峠を越えていく喜び、生きがい、その一つがつながることだと思います。家族とつながる。友だちとつながる。地域とつながる。地域を越えてつながる。国を越えてつながる。つながりはここまでという範囲^{はん}がなく、果てしなく広がっていくものです。

つながること。その最も基本になるのが一番身近な人とどうであるかだと思います。私たちには生活の場がそれぞれありますが、家庭で、クラスで、職場で、地域でというように身近な人ときっちりとつながっているかが問われていると思います。そして、そのつながりの中身が部落問題・差別問題であるかどうかだと思います。今年も多くの人たちが全国各地から全体学習を参観^{さんかん}に来られました。多くの人たちとの交流を通して、同和教育が各地でうねりをあげているのがよくわかります。しかし、その度に最も身近な人とつながりきることが大切だと感じてきました。

人間は弱いからすぐ責任^{せきにん}転嫁^{てんか}をしています。自分を正当化^{せいとうか}したり、安心させるために自分を安全な位置において、人の責任にしたり、人を批判^{ひはん}することによって自分をごまかしていきます。私自身の生活を振り返ってみると思い当たることがたくさんあります。部落問題や差別問題に取り組んでいくとき、また、人とどうつながっていくのかを考えると、「課題は自分の中にある」と常に自分自身に問いかけて生きていきたいと思っています。つな

がることを目標に自らの課題を越えていくこと、そのことは自分自身を人間として磨き^{みが}続けることです。磨き続けることは輝かせることです。自分を輝かせることができないで、人とのつながりを広げていくことなんてできないと思っています。

すべての人間が尊ばれ、すべての人間の命がキラキラと輝く明るい社会。そんな社会をつくろうと、常にその先頭^{せんとう}に立ってきたのが部落解放運動です。この運動で勝ち取ったもののひとつが学習会でした。みなさんはもうわかっていると思いますが、すべての人たちが人間として尊ばれる社会づくり、その社会づくりに^{こうけん}貢献していく人間になっていくことを学ぶ場が学習会だったのです。部落を解放することはすべての人間を解放していくことなのです。誰もかもが光り輝いて生きることのできる社会をつくっていく運動が部落解放運動なのです。すてきな運動ですね。

中学校を卒業すれば、もちろん学習会はなくなりますが、学習会のように部落解放・人間解放をめざし、さまざまな学習会やエネルギーな取り組みをしている会がたくさんあります。

板野町では、地元友の会^{しんゆうかい}「真友会」があり、毎週土曜の夜に総合センターで学習しています。また、各高校では部落解放研究会などがあり、それぞれ自主的に部落問題に取り組んでいる会があります。進路は違っても、どんな場に立たされても、「今、自分にできることを問い続ける」中で、そういった会に自主的に参加し、^{こころざし}「志」を同じくする仲間と共に、これからも部落問題の解決に^{ましようめん}真正面から取り組んでほしいと願ってます。

「人の世に熱あれ 人間に光あれ」と唱^{とな}えた水平社宣言が出されてから74年が過ぎました。私たちの先人^{せんじん}は、^{きび}厳しい差別の中を、^{はげ}支え合い励まし合いながら団結することによって生き抜き社会を変えようとしてきました。正しいことを正しいこととして貫^{つらぬ}いてきました。だからこそ、本当の人間の強さ、優しさを身をもって知っています。また、差別に対する痛みや怒りを、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消に向けてのエネルギーに変え、闘いの炎を燃やし続けてきました。その生き方は、誇り得る生き方そのものです。私たちは、どんな困難にもめげずに生きてきた^{せんじん}先人の、誇り得る生き方を自分のものとするために、これからも生きていきたいと思うのです。

そして、すべての人間が尊敬される明るい社会をつくるために、私たち一人一人が部落解放の「熱」を持ち、自分自身を光り輝かせることによって、共に社会を明るく変えていきましょう。

部落問題でつながったつながりは一生ものです。宝物です。研修会や集会などで、さら

にたくましくなったみなさんに会えるのを楽しみにしています。



二年間を振り返って

学習会専任指導員 山下 博志

早いもので、板野中学校に学習会専任指導員として勤務^{きんむ}して二年が過ぎようとしています。この二年間、学習会活動を中心に自分なりに試行錯誤^{しこうさくご}を繰り返しながら専任指導員として取り組んできました。また、自分が専任指導員として取り組んでいくなかで、乾先生や岩谷先生^{きき}に支えられ、阿部先生や吉成先生、多くの先生方の御指導^{ごしどう}、御協力^{ごきょうりょく}をいただいたことに感謝^{かんしや}しております。本当にありがとうございました。それから、学習会活動・学校生活においても多くの子どもたちに元気をもらい支えられたことは、自分にとって大きな励み^{はげ}となりました。みんな、本当にありがとう。また、3年生のみなさんはもうすぐ中学校を卒業し、一人一人がそれぞれの道を歩いていくわけですが、板野中学校で学んだことをこれからの生活にいかし自分の夢が達成できるように頑張ってください。1, 2年生のみなさんも中学校生活の中で多くのことを学び、思い出もいっぱいつくって頑張ってください。

最後になりましたが、この紙面^{しめん}を借りまして、保護者の方々を初め、学習会活動に御協力^{ごきょうりょく}を頂いた方々に厚く御礼^{おつ}を申し上げます。



板中へ来て思ったこと

学習会専任指導員 岩谷 陽子

3年生のみなさん、卒業おめでとうございます。板中生のみなさんとは8カ月という短い期間でしたが、たくさんのことを学ばせてもらいました。一つは部落問題を自分のこととしてとらえることです。今まで地区の人は大変だなあ。闘いつづけすごいと地区に対して暗いイメージを持ち、第三者的な立場でいました。全体学習に参加させてもらって、地区の人が悪いのではなく、差別している地区外の人に問題があることを、当たり前のことなんだけど、改めて強く感じさせられました。自分自身の言動^{げんどう}が相手を傷つけていないか、全てとはいえませんが、意識できるようになりました。

二つめは、本当の仲間の大切さです。自分の周りには、自分の言動がおかしいと“それは間違っている”と言ってくれる友達がいるだろうか。全くいないわけではないけれど、関係が薄い^{うす}ように思います。これから出会う友達、今までの友達の関係を、もっと強い結^{むす}

びつきにしていきたいと思います。みなさんも素敵^{すてき}な本当の仲間を作ってください。自分がどう思われるかではなく、相手のことをどれだけ真剣に思っているかだと思います。一緒にがんばりましょう。

三つめに本当の仲間と部落問題をはじめおかしいこと、間違っ^{まちが}ったことを直していくため闘うことは、ほんとうにすごいことだと思います。間違っ^{まちが}ったことをしている人が大きな顔をして生きている。おかしいですね。板中でしている全体学習は、社会での不合理なこと、薬害エイズ、女性差別、障害者差別^{もど}を解決する力の基になると思います。ほんとうにすごいことですよ。今私ができることは、自分の身の周りのおかしいことを直していくことです。みなさんにとっても同じだと思います。また自分だけでなく、自分の家族と一緒に部落差別について話し合い、考え、がんばりたいです。こんなことが人間らしく誇りある生き方だと思います。3年生のみなさんも、友達と離ればなれになる人もいるかもしれませんが、離れても友達は友達です。また、新しい友達と周りにつぶされることなく、がんばってください。

最後に、全体学習や文化祭での人権劇など、たくさんの体験をし、みなさんから元気や勇気をもらい、少し成長できたと思います。これからも、明るくしつかり前をみて進んでいきたいです。短い間でしたが、ほんとうにありがとうございました。

★ ★ ★ ★ ★

君^{きみ}がなすべきこと

学習会専任指導員 乾 広道

「参^{まい}ったなあ」

同級生や知人^{ちじん}に偶然^{ぐうぜん}会うと、どうしてもお互い「久しぶり、今何しよん？」という会話から入ってしまいますよね。（たいていそうでしょう）その時、

私：「今、板野中学校で学習会専任指導員って言うのをやってる」

相手：「何それ？臨時^{りんじ}みたいなやつ？」

私：「あ〜…ちょっと違う。学習会って知っとるか？」

相手：「学習会…？あ〜、あの放課後に何か集まってどっかの会館ような所で

勉強しよったやつか？」

私：「（さてこれからどう説明しよう？）あ〜、そうそうそれよ。その専門の指導員、つまり先生をやってる」

相手：「ふ〜ん（よくわからんが）。おまえも頑張ってるんやなあ。でもおま

えが先生や勤まるんかえ？あっはははは〜」

私：「（あのな〜、ちょっとじっくり話聴いてみるかおまえ）そうだろう！？」

わっはははは〜」

というような光景が一瞬のうちにひらめいて（？）「参ったなあ」と感じてしまうのです。また、実際に上のような会話が進行するのですが…。

ここで、「参ったなあ」と感じることにについて語らなければなりません。この「参ったなあ」は今と昔（学専になって間もない頃）では、全くその中身が異なります。以前の感情は、本当にどうやって説明すれば学専の仕事の意義や目的を相手に感情の壁を作らせずに伝えることができるか分かりませんでしたし、何よりも私自身の意識があまりにも低すぎました。「絶対に自分にプラスになる」と確信しながら、この仕事に堂々とできない自分があったのです。

ところが、今の感情は少し違います。話すことがいっぱいあります。久しぶりに遭う人にしては。（それにやっぱり何よりも今のこの仕事を楽しくしているし胸だって張れる。）いきなり堅い話を切り出すのも何だし、かといって軽く話し合うほど視野も広くないし、経験もないです。それにしてもせっかく学専の話が出たんだから部落問題の話をここで（気軽に）話をしたいなと思うのです。しかし、切り出せません。相手が引いてしまうのが怖いから。そこでものすごい葛藤に苦しんで、結局は「（参ったなあ）わっははは〜」というパターンになってしまうのです。

この2年間、成長というほどなのではないのですが、様々な、かつたくさんの変化が自分の中に起こりました。上に書いたのはそのほんの一部でしかありません。（最後の）ここに書くには役不足と思われるくらいのものです。しかし、いずれにしても自分のところい所がたくさん矯正できて気持ちがいいです。まだまだ矯正すべき所はいっぱい残っています。ある（精神学者）人は「自分自身になる（到達する）ことが人生の究極の目標である」という言葉を残しています。いい話だと思いませんか？

9:00〜17:00までならぬ11:00〜20:00まで

「お先に失礼します…」「おつかれさまでした」という挨拶が職員室にぼつぼつと聞こえだす時間帯にやっと学習会専任指導員の本格的な仕事の時間が始まります。朝が遅く夜も遅いこの勤務状況を、ただ中学校には勤めているらしいとしか知らない近所の人たちは、恐らく不思議に思っていた（る）に違いないでしょう。

プリントはこれでいいか？今日はノ一部活DAYだから、たくさん用意しなければいけない、

今日はあいつ、あの子来るかな？パン、ジュースは何個くらい用意すればいいだろう？どんな話をしよう。今日はこんなことがあったからそんな話題がいいかも知れない。今日こそは（久しぶりに）ちゃんとできるかいな…etc と、まあ、およそこんなこと（こんなことだけではないけど）を日々^{ひび}考えながら各会場に向かっていました。みんなはどんな思いで学習会に来ていたのでしょうか？「2年間も学専をやっているそんなこともわからんのか？」とつつこまれそうなのですが、どうなのでしょう？「先生！今日の学習会行けへんけん！」とあつけらかんと言う子もいました（よね？）。（身に覚えのある^{おぼ}君、^{きみ}君だよ、^{きみ}君！！）「おいおい、なにそれ？！（その明るさは）」「ほなって、シンドイもん」と言う^{ぐあい}具合に…。

部活、塾、^{なら}習い事、家庭の事情（考え、主義）その日の事情、個人の事情（考え、主義）…etc。中学生にもなるといろいろあるのだ。分かるぞそれは。大切な物はいっぱいあるのだ、うん。

さてここで、いまから、中学校3年間の学習会活動が、中学校3年間の生活や、^{いっしょう}一生の間に占める割合を示します。^{けいさん}計算過程はとばしてもいいから、結果だけでも見て、いかに学習会活動がわずかなものでしかないか各自^{かくじ}考えてみて下さい。

1年365日。

1日が24時間だから1年は、

$$24 \times 365 = 8,760 \text{時間},$$

^{びょう}秒に直すと（1日は $60 \times 60 \times 24 = 86,400$ 秒だから）1年は、

$$86400 \times 365 = 31,536,000 \text{ (さんぜんひゃくごじゅうさんまんろくせん) 秒}.$$

みんなが80年生きるとして、人間一生、

$$31,536,000 \times 80 = 2,522,880,000$$

（にじゅうごおくにせんにひゃくはちじゅうはちまん）秒である。

中学校の学習会は、年間120時間。これを日に直すと $120 \div 24 = 5$ 。3年間でたったの15日しかない。（十分多いって？あわてない、あわてない）15日を秒に直すと、

$$86,400 \times 15 = 1,296,000 \text{ (ひゃくにじゅうきゅうまんろくせん) 秒}.$$

（待った、ここまで来たなら最後まで読んでくれ！！）

中学生生活3年間 $94,608,000$ （きゅうせんよんひゃくろくじゅうまんとはっせん）秒。

学習会の時間がこの中学校生活に占める割合は、

$$1,296,000 \div 94,608,000 = 0.0136986 \dots$$

たったの1.3%しかない！！これは、1日の生活で考えると1123秒（およそ18分）一回のご飯を食べるくらいしかないのです。

そして、またこれを一生に対する割合で考えてみると、

$$1,296,000 \div 2,522,880,000 = 0,0005136 \dots$$

つまり、およそたったの0,05%しかない。またまたこれを、人生が一日として（24時間）の生活に占める割合に換算してみると、

$$86,400 \times 0,0005 = 43,2 \text{秒}$$

43秒なんて少し「ボケー」っとしていたらあつと言う間に過ぎてしまう時間ですよ。

結果 学習会活動（中学校3年間のみ）が占める割合

中学校生活全体（3年間）に対して………1,3%（一日に換算して18分）

一生（80歳まで生きるとして）に対して ……0,005%（一日に換算して43,2秒）

どうでしょうか？ちょっと数字がたくさんあつて嫌になった人も多いと思いますが、こうしてみると少ないでしょう、学習会の時間。本当に単なる通過点としての1,3%（一生では0,05%）にしてしまうか、もっと密度の濃いものにするかはあなたの自由で（した）す。

卒業していく3年生のみんなは、これで一応の区切りがついてしまうのですが。スタートは遅くても、（学習会に來れなかった人も）始めようと思ったとき、それが自分の「学習会」の始まりです。まず、とっかかりとしては3月20日の「学習会一日研修」はその最高の場の一つになる、と、いや、しようと思いませんか？

私自身の、この板野中学校での2年間は、（はるかに）2/25以上の重みと充実がありました。冗談抜きでこれは学習会のみんなをはじめ、この2年間で出会えた（向こうにとっては迷惑だったかも…）方々のおかげです。こんな私の相手をしてくださって、どうもありがとうございました。また、ご迷惑をおかけいたしました。しかし、またお世話になる（する）かもしれません…。

「良き日の為に」

I HAVE A DREAM.

私には「夢」がある。

ONE DAY THE SONS OF FORMER SLAVES

かつての奴隷達の子らと、

AND THE SONS OF FORMER SLAVES-OWNERS WILL ABLE TO SIT DOWN TOGETHER

かつての、その奴隷のあるじの子らが、

AT THE TABLE OF BROTHERHOOD.

いつに日か、ともに同じ人間として卓を囲むことができる、という夢が。

これは、ある人類史上、もっとも人間の精神の偉大さを示せた人物の中の一人が残した
(有名な) 演説の一部です。(DO YOU KNOW M.L.K ?)

アメリカは、現在も他の深刻な問題を抱えつつ、試行錯誤を繰り返しながらも、この
「ONE DAY」を目指しています。まだまだ、先は長そうですが、アフリカ系アメリカ人(い
わゆる黒人)を含めて、有色人種の権利は大きく保障されているそうです。いずれ、白人
男性以外のアメリカ合衆国大統領の誕生も、この調子では遠い日ではないようです。

解放令が出ておよそ120年、水平社が創立されて74年、同和対策審議会答申が「部落問題
の解決は性急にして、国民的課題である」と述べてから31年。封建社会が葬り去られて長
い月日が経ってからやっと、かつて差別されていた同じ日本人の権利に日が当たりはじめ
ました。大きな前進がありました。先人の長い長い努力のおかげで。(当然現在も運動は
継続中です。)しかし、まだ、きっちりと差別は残っています。見えにくくなっているだ
けに過ぎません。

「良き日」というのは確か、水平社が創立されたときに語られた言葉で「解放の日」を
指しています。これは、「ONE DAY」と全く意味を同じにするものです。「世代が代われれば、
差別は消える」と言われ続けてここまできてしまいました。みなさんの世代になって、差
別が自動的にまるで過去の記憶のように人々の心から消えると思いますか？将来、自分の
子らに今の差別に苦しむ気持ちをもたせたい？自分が大人になってから出会うかも知れな
い(幸いにも出会わないかもね)「試練」を精一杯想像してみると、もっと考えかわるかもよ。

日本国憲法の「ここに保障される自由及び権利は、国民(つまり私達)の不断(切れる
ことのない)の努力によってこれを保持しなければならない」を忘れないで置いて下さい。
こんなに自由にもものが言えて、暮らせるようになるまで、日本(一部を除いて世界も)は
何千年もかかったことも知っておくように。自由と権利は与えられるものではなく、守る
ものなのです。知らない間に社会科の勉強でならった恐ろしい時代に逆行させないために
も「若いし」はがんばらないといけないのです。分かりますか？

では、最後にまたこの言葉を、

力をくれたみんなが永遠に幸せでありますように。

◎不可侵, 不可被侵 部落解放の父・松本治一郎 (「松本治一郎・小伝」平野一郎・人権ブックレット)

今年度最後のMY SKYの最後に、すべり込みでこの記事を載せておきます。ようやくこの記事を載せても大丈夫なだけのところまできたように思うからです。

松本治一郎とは、一年間の総まとめとして載せてもいいほどの人物で、この前観た田中正造ともダブるところがあるほどの人物です。その人物像を、人権ブックレットの「松本治一郎・小伝」から「はじめに」と「15 カニの横ばい拒否」を抜粋して紹介しておきます。どうぞ心して読んでみてください。

はじめに

全国水平社の創立宣言が、京都岡崎公会堂で発せられたのは一九二二年三月三日でした。宣言文を起草した西光万吉さんが「わたしが、一番言いたかったことは」と話されました。「人間は、尊敬せにやならん」「人間は、侵すことのできぬ、光りかがやく存在だということなんです」。

水平社の名づけ親の阪本清一郎さんは、こう言われました。「水は、つねに、たいらなもの。それが自然のことわりではないか。人間の平等を、この水平という言葉であらわそうではないか、と創立前夜の京都の旅館で提案したら、みんな手をうって賛成してくれたのです」。

この全国水平社の第四回大会で議長に選ばれ、戦後、部落解放全国委員会、部落解放同盟の中央本部委員長を亡くなるまでつとめられたのが、松本治一郎さんです。黒いフチの眼鏡をかけ、ノーネクタイで、白いあごひげのある温顔の写真を解放センターなどで見かけられたことがあったら、それが部落解放の父・松本治一郎さんです。

一八七一年「えた非人等の称、廃せられ候条、自今、身分、職業とも平民同等たるべきこと」。あの賤称廃止の太政官布告が出されてから、120年たちました。一九二二年の「人間性の原理に覚醒し、人類最高の完成にむかって突進する綱領」を定めた、水平社の創立からまる70年です。

一九六五年、国の同和対策審議会は「同和問題は、人類普遍の原理である人間の自由と平等に関する問題であり、日本国憲法によって保障された基本的人権にかかわる課題である。その早急な解決こそ、国の責務であり、同時に国民的課題である」と答申しています。松本治一郎さんは「同対審の答申は、歴史の流れから見ると画期的

なことである。完全解放への一つの拠り所である。これは、部落の大衆のみならず国民全体のしあわせに通じる」とNHKテレビで訴えられ、同対審答申完全実施の先頭に立つ決意をあきらかにされたのでした。

そして、あくる一九六六年三月四日、大阪での部落解放同盟第二十一回全国大会で「がんばろう」の音頭をとられたあとの六日夕、福岡の自宅でおいて、十一月、永い眠りにつかれたのです。

あれから25年の歳月がたっています。写真でしか松本さんを見たことのない、若い部落出身者の男女が、奨学資金を受け、就職差別をはねのけ、胸張って、人権の大道を堂々とあゆむ姿を各地で見受けるようになりました。

ですからこそ、「最後の一滴まで」と闘い続けてやむことのなかった松本治一郎さんの肖像を、若い方々に知ってほしい。同和対策事業特別措置法（1969年）以後に部落解放運動に関心を持たれた方々にも、その七十九年の生涯にふれてほしい。

.....略.....

15 カニの横ばい拒否

松本さんを語るとき、カニの横ばいをだんこととして断った事件がよく知られています。それは、こんな事件でした。

一九四八（昭和23）年一月二十一日、第二回国会の開会式のことです。それまでは天皇が国会のはじまるまで一服されますが、そのときに衆議院、参議院の正副議長が単独拝謁をするならわしがあったのです。

まず衆議院の松岡駒吉議長、つぎに参議院の松平恒雄議長、つづいて衆議院の田中万逸副議長で、おしまいが参議院の松本副議長でした。前の三人を見ていると、宮内府のおつきの役人の合図で、からだを横にして横へ横へと、カニがモーニングをきて横ばいするかどうかで天皇のところへ行き最敬礼をしているのです。松本さんの番がきたとき、彼は「人間が人間をおがむようなまねは、ぼくはできん」と拒否したのでした。「迎えも見送しも、議事堂の正面玄関でちゃんとしたのだから、当然の礼はつくしている。こういう旧憲法の時代そのままの儀礼は、新憲法にふさわしくないと考える。とくに拝謁という言葉はいけない。あいさつでいいではないか」と言いました。

一九四六年一月一日、天皇の人間宣言がおこなわれ、「主権在民」の新憲法が一九四七年五月三日から施行されたあとの最初の国会の開会式です。副議長の辞任をせま

った緑風会、自由党、民主党の保守三派の代表にたいして、「むかしは、臣下たる正副議長が天皇に拝謁をおおせつかったが、いまは、国会を代表する接待役としての天皇へのあいさつだ。カニの横ばいは、国会代表の人間性を冒瀆する。天皇を神に持ち上げることは、かえって人間天皇を侮辱することではないか」と、一步もしりぞかぬぞという気迫で松本さんは答えました。

拝謁というのは、君主など高貴な人にお目にかかるという特別な謙譲語です。松本さんのこの考えを、総司令部（GHQ）の民政局も支持し「彼の行動の是非は、彼を選挙したものが、つぎの選挙で民主的な手続きによって十分にあらわすことができる。不敬罪はすでに廃止され、天皇は人間宣言をおこなっていることを忘れてはならぬ」という見解を発表しました。松平議長も「ぼくも賛成だ。前に一度ころんだことがあって、横あるきはきらいだった」と賛成し、カニの横ばいは廃止ときまりました。松本さんが、身ぶりで「こんなひどいことがまかり通っていたんだよ」とカニの横ばいを私に見せられた姿が目によきついています。

つぎつぎと脅迫状が舞いこんできました。「おれは、逆賊のお前をかならず殺す」というのがありました。「貴様は、月に十五日のヤミ夜があることを知らないか」というおどし文句もありました。この一通の消印に岡山県倉敷局とありました。もちろん、名前は書いてないか偽名です。松本さんは三月早々、倉敷市で「カニの横ばい真相発表会」をひらきました。会場のまん中あたり、右翼暴力団とおぼしい一団が三十人あまりかたまつて座っています。

「常闇の中に命をかけて闘ってきたぼくの生涯に、月に十五日のヤミ夜があるなどとは、片腹いたい。いや、両腹がいたい。思想は自由なんだから、ぼくの意見や行動に反対の人は、どうぞこの上にあがっておいでなさい。正々堂々と議論をしようではありませんか。この松本はいつでも引き受ける」と、憲法十四条の「法の下に平等」の精神をじゅんじゅんと訴えたのです。

「すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分または門地により、政治的、経済的または社会的関係において、差別されない」「華族その他の貴族の制度は、これを認めない」という、十四条の中の「門地」という言葉が付け加えられたのは、「社会的身分」だけでは不十分だからという松本さんらのかねての主張が入れられた、といわれています。門地・門閥という言葉は、生まれとか家柄とかをあらわしています。「個人の尊厳」ではなく、「毛なみがよい」とか「どこ

うま ぼね の馬の骨がわからぬ」とか「^{めいもん で}名門の出」などという^{み ぶん い しき}身分意識こそ、松本さんがいちばん闘ってきたものでした。

「^{こんいん りようせい ごう い}婚姻は、両性の合意のもとづいて^{せいりつ}成立し、^{ふうふ}夫婦が^{めう}同等の権利を有することを基本として…」の二十四条が、「^{ごう い}合意のもとづいて」の^{げんあん}原案が「合意のみのもとづいて」と「^{い ごう}個人の尊厳と^{はんせい}両性の平等」を強くうたったものに^{あらた}改められたのも、こうした^{い ごう}意向が^{はんせい}反映されたからだと聞いています。

松本さんは、^{ちようしゅう}倉敷の二千人の^{ちようしゅう}聴衆にしゃべりおわったとき、「^{てんすう}天皇にたいするいわれなき^{そんけい}尊敬こそ、^{そんけい}部落民にたいするいわれなき^{こんげん}差別の根源だからね」と、心配してかけつけた^{しじ}支持者をかえっては^{びしやう}げますように微笑でこたえたといひます。

.....略.....

どうです。すごい人がいたものですね。部落民として、その^{ほこ}誇りを持ち続け、部落解放のために生涯を^{きさ}捧げた人です。松本治一郎が亡くなったとき、^{ついとう}追悼の意味を込めて「この人を見よ」というビデオが出されました。それもぜひとも見てほしいものです。

部落に生まれた^{ほん}誇り。その誇りにはさまざまな誇りの形があります。父母の姿。祖父母の姿。自分の姿。そして、その思いを受けて、^{さいぜんせん}最前線で闘い続けた人々の姿があります。それらの人々の^{こん}根本には、「差別をなくす」という思いが共通して



あるのだと思えます。私たちもその一員^{いん}として、これからも仲間を増やしながらか、歩き続けていくことだと思ひます。ここまでなくなってきた^{こんぜつ}部落差別の現実を根絶するため、また差別を許さない、差別と闘う社会^{じつげん か}を実現化していくために、これからも力を合わせていきませんか！そしてそういう社会こそが、どんな差別をも許さない、いじめをも許さない社会につながると信じています。少しでも松本治一郎の生き方に近づけるよう、これからも力を合わせましよう！



◇ ◇ ◇ ^{にっけい}これからの日程 ◇ ◇ ◇

いよいよ明日は卒業式。本当はもっともっというろんなことを記事として載せたかったのですが、もうそれもかなわぬこととなりました。^{さべつかいみょう}差別戒名^{きげん}のこと、来年3月31日に期限切れする^{ちたいざいとくほう}地対財特法^{きほんぽう}「基本法」^{せいてい}制定^{しょうがくきん}のこと、奨学金^{どうたいじぎょう}を含めた同対事業^{へんけん}に対する偏見^{ふくちやま}のこと、3月2・3日に行った京都・福知山市^{たかさご}のこと、高砂市^{ひとりしばい}で観た一人芝居「ヒミコ伝説」のこと、3月9・10日に行った愛媛^{いまばり}・今治市^{おり}のこと……。その他たくさん^{おり}のことがあります。これらのことは、来年度春に、折をみて載せていきたいと思ひます。卒業生のみなさんは残念ながら読むことができませんが、進んでいった先で、いろいろな学習や仲間を求め、自ら歩み始めてください。そのためにも、明日という日を、感動的な卒業式にしましょう。

なお、20日には学習会お別れ一日研修があります。これが今年度最後の学習会になります。全員参加で最後の語り合いをし、この学年、この学校に別れを告げること^うにしましょう。真友会^{しんゆうかい}（高校生友の会）の先輩^{せんぱい}たちも参加してくれるようですよ。

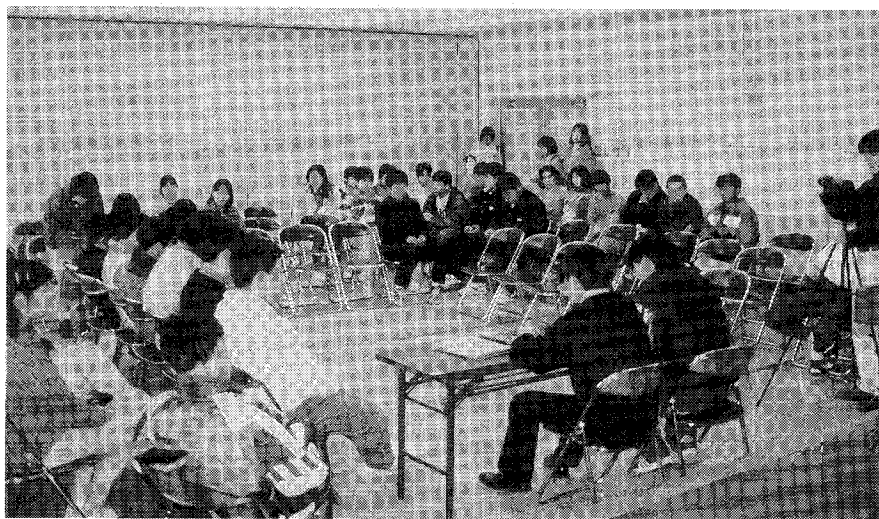
長い長いMY SKYになってしまいましたが、最後まで読んでいただきありがとうございます。いたらぬことも多々^{また}ありましたが、今年度の記録を生かして、また来年度発行していきたいと思ひます。よろしくお願ひします。今年一年、本当にありがとうございました。

★ ★ ★ ★ ★

☆ 3月13日(水) 卒業式

★ 20日(水) 学習会お別れ一日研修（終日：総合センター）

☆ 22日(金) 終業式



学習会お別れ一日研修（3月20日：総合センター）